



# ひろしま郷土資料館だより

No. 100

## 企画展

### 夏休みおばけの博物館

令和2年7月18日(土)～8月23日(日)



「肥後国海中の怪(アマビエの図)」京都大学附属図書館蔵をもとに製作した郷土資料館オリジナルの妖怪アマビエ

江戸時代末、肥後国(現在の熊本県)の海中から現れ、向こう6年の豊作と疫病の流行を予言。その時は自分のすがたを写し人々に見せるよう告げています。



デジタル紙芝居「<sup>えんごう</sup>猿猴と<sup>かっぱ</sup>河童の話」ロビーに響く「きゃー、こわいよー」のセリフが忘れられません。



アマビエれんガールのボードには、みなさんの願いがたくさん託されました。

## 目次

- P 1-2 企画展「夏休みおばけの博物館」
- P 2 イベント「郷土資料館被爆建物案内」
- P 3 多言語ガイドシステムへの導入
- P 3-4 「礎石」が広島市に寄贈されました

- P 4 博物館実習・インターンシップ
- P 5-6 おうちでミュージアム・活動報告
- P 6 令和2年度 後期展示紹介

昭和60年(1985)12.1創刊の本紙は今号で、100号となりました㊥!



今年も毎年恒例の「おばけの博物館」…と書きたかったのですが、新型コロナウイルス感染症対策で、例年同様のおばけ屋敷風の展示をすることが難しくなっていました。それでも、怖さもちょっぴり残しつつ開放的な空間でおばけたちの立体模型をじっくり見ていただき、室外のパネルでそれぞれのおばけについて紹介するよう、文字通り「おばけの博物館」を目指してスタイルを変更しました。



毎年「おばけの博物館」でお待ちしているおばけたち。今年は「こわいよう」なんて顔をそむけず、ちゃんと見ていただけたでしょうか。

2階展示室は仕切り壁は設けず、サーキュレーターや空気清浄機を用いて、風通しを良くしました。中を見る時は、暗いところに入ってもらいますが、例年好評の脅かしタイムや凝ったしかけはできないので、「ほんとにこわい？か、よく見てみよう」をキャッチコピーに、おばけの前に進むとスポットライトが当たってその姿が浮かび上がるよう設定しました。今年は、コロナ禍で疫病退散の妖怪アマビエが一躍有名になりました。新しい立体模型のアマビエをはじめ、当館の看板娘れんガールも、アマビエの姿に扮して、広報やイベントで活躍、廊下にもアマビエれんガール・アマビコレんガールのパネルを用意し、うろこをかたどるようにハート型の付箋に願い事を書いて貼っていただきました。



#アマビエにお願い 2階廊下のボードに貼っていただいた付箋を集めたらすごい数になりました。コロナの収束を願うものが多かったです。

1階では、アマビエに代表される疫病や豊作を告げる「よげんじゆう予言獣」と呼ばれるおばけたちを紹介したり、神楽の疫病退散の演目「しょうき鍾馗」の面や、毎回好評のつくも神作家・八木一文さんのおばけフィギュアの新作を展示しました。また、春に披露できなかった、「ひろしま歴史探検隊ボランティア」による紙芝居「猿猴と河童の話」をデジタル紙芝居として期間中上映しました。(前野やよい)

会期中の来館者数：3,951人

## 被爆建物案内

令和2年8月6日(木)

被爆75年目の8月6日(木)に、被爆建物である当館の建物(旧宇品陸軍糧秣支廠うじなりくぐんりょうまつししょう)の説明を通して、戦争と平和について学ぶ「郷土資料館被爆建物案内」を行いました。

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、戦中戦後の食糧難の時代に食べられた「江波団子えぼだんご」「一銭洋食いっせんようしょく」の試食はやむなく中止し、館内の3か所での解説を中心に実施しました。

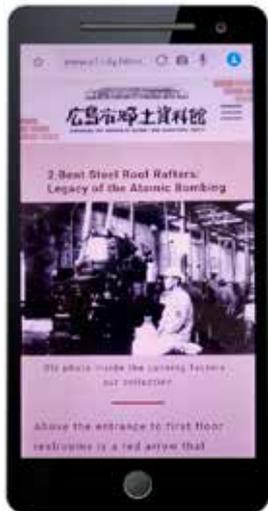
①エントランスにある原爆の爆風で曲がった天井の鉄骨を見ながら、建物の109年間の歴史の解説、②講堂で昭和7年(1932)に宇品港からの出兵を見送る広島市民の姿を記録した映像上映と解説、③常設展示室「昭和の茶の間と台所」(夏休み中は戦時中バージョンに展示替え)を見ながら、戦時下の生活についての説明をしました。(河村直明)



出兵の映像を見ながら説明を聞く来館者

実績141人

## 多言語ガイドシステムを導入



本来、今年度はオリンピックイヤーであり、多くの外国人旅行者が広島に来られることが予想されていました。しかし当館の展示においては外国語対応がされていないので、外国のお客様向けの展示解説が必要となったのです。とはいえ、館内の展示解説を複数の言語に対応するものに一新するのは大変です。そこでその方法として採用されたのが、館内専用の無線LANを構築し、それを使って来館者のスマートフォンやタブレット端末に展示解説を表示するというものでした。今年の9月より、当面は日本語および英語のガイドでスタートしています。

使い方は、まずお使いのスマートフォン・タブレット端末の「設定」で専用のWi-Fiを選択していただき、パスワードを入力します。展示室内の要所要所にQRコードが表示されていますので、それを読み込んでアクセスすると、その場の展示解説が表示される仕組みです。また、関連の動画を見ることもできます（日本語のみ）。来年こそは多くの外国人旅行者を受け入れ、ガイドシステムが役に立って欲しいです。また、当初の目的はインバウンド対策でしたが、今後は地元の入館者向けのコンテンツも充実させていけたら良いと考えています。動画配信も可能ですので、色々な展開ができそうです。なお、このガイドシステムは館内での運用ですので、ぜひ郷土資料館にご来館いただいております。お試しくささい。(本田美和子)



受付前に使い方を記した表示があります

## 「碇石」が広島市に寄贈されました

今年7月15日、当館の館長室において一つのセレモニーがとり行われました。広島市が陸上自衛隊より貸与を受けて当館ロビーで公開してきた「碇石」が、このたび先方のご厚意により市へ寄贈されることとなり、その受領式です。

「碇石」と聞いてすぐにピンとくる方は、相当の歴史好きと言えるでしょう。古代から中世の船には、木材と棒状の石材を組み合わせた「木碇」が使われました。その重しとなる石材を「碇石」と言います。当館のものは、鎌倉時代の蒙古襲来時に元（王朝）の軍船が使用した碇石と考えられています。昭和6～15年（1931～40）に行われた博多湾浚渫工事の際に、海底から発見されました。なお「いかり」の表記として、石製は「碇」、金属製は「錨」と書き分けられます。



「碇石」の展示の様子

では、遠く九州で見つかったものが、どうして広島に残されているのでしょうか。その経緯は次のとおりです。浚渫工事では6点の碇石が発見されましたが、そのうち2点が広島へ、1点が江田島へ移されました。これには当時、陸軍の意向があったようです。広島へ移されたうちの一つは「宇品号」と名付けられて陸軍運輸部・凱旋館に展示されましたが、戦後は同地に放置されていまし



目録の贈呈

た。なお、広島にあったもう1点と江田島分は、行方不明となりました。昭和30年(1955)ころ、「宇品号」は旧陸軍船舶司令部と任務の性格が似ている陸上自衛隊京浜港湾処理隊(横浜)が管理するところとなり、その後横浜海洋科学博物館で長く展示されました。博物館の閉館に伴って民間の旅客運送業者に貸し出され、平成元年(1989)から釧路のフェリーターミナルで展示されました。そして同5年、広島市教育委員会が一年更新で貸与を受けることとなり、当館において11月12日から公開が始まりました。

それから27年。このたびの寄贈により、「碓石(宇品号)」はゆかりの自治体が直接所管する郷土資料として位置づけられることになりました。広島の歴史を物語るだけでなく、見る人の興味関心を宇品の地につなぎとめる“アンカー”としての役割を、これからも果たし続けてくれることでしょう。(稲坂恒宏)

## 博物館実習

令和2年6月～8月

今年度は新型コロナウイルスの流行により、大学でも対面の授業が長期に渡ってできない状況になっていました。当館で例年行っている学芸員資格取得を希望する大学生のための見学実習と館務実習が果たして無事にできるのか心配でしたが、感染防止対策を取った上でいずれも行うことができました。

見学実習では、館の概要解説とバックヤード見学を行ないました。一方館務実習では、当館の博物館活動の実際を講義形式や実技で学びいただきました。実習生にはその集大成として、8月6日のイベント「被爆建物案内」において、当館の被爆建物としての歴史や当時の人々の暮らしについて来館者に解説をしていただきました。フェイスシールドとマスクを着用するという慣れない状況でしたが、しっかりとやっていただけました。(本田美和子)



「被爆建物案内」にてガイドを行う実習生

◆見学実習◆ 6月9日(火) 広島市立大学 16名

◆館務実習◆ 7月31日(金)～8月7日(金)6日間

比治山大学、県立広島大学、広島大学、安田女子大学 8名

## インターンシップ

令和2年8月～9月

当館では、毎夏インターンシップ実習生を受け入れています。今年度は総勢9名の学生に、藍のマスク染めや大人の染色教室、消防音楽隊のふれあいコンサートなどのイベント、9月5日開始の企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」の展示準備等に携わっていただきました。(前野やよい)

8月19日(水)～21日(金)3日間(都合により短縮) 安田女子大学 3名

8月26日(水)～30日(日)5日間 安田女子大学 2名、県立広島大学 1名

9月2日(水)～6日(日)5日間 安田女子大学 3名

# おうちでミュージアム

当館は、新型コロナウイルス感染症対策として、2月29日(土)から6月21日(日)まで臨時休館となりました。そのため、展示物や収蔵品をみなさんにご覧いただく機会がなくなり、スタッフも寂しい日々を過ごしていました。そこで5月初旬、当館ホームページに「おうちでミュージアム」をオープンしました。展示物や収蔵品の中から、学芸員がおススメをセレクトし、民具の造形や使い方の紹介、商工便覧「ひろしましよしょう しうれいかいもの広島諸商仕入買物案内記あんない きならび めいしよ并二名所しらべ」[明治16年(1883)発行]に描かれた広島の町や店の解説、干拓・埋立地



郷土資料館 HP「おうちでミュージアム」



ぬり絵作品 まんじゅう屋「とらや」

開発についての YouTube 動画「広島段差めぐり」など、自宅で気軽に学習していただけるコンテンツにしてみました。

さらに、「広島諸商仕入買物案内記并二名所しらべ」に載っている挿絵でぬり絵も作ってみました。細かくて少々難易度の高いぬり絵ですが、その分達成感があり、挑戦者のぬり絵作品は現在、当館図書コーナーにて展示中です。「おうちでミュージアム」は今後も更新していく予定です。お楽しみに。(山縣紀子)

## 活動報告

令和2年7月～9月(4月～6月のイベントは全て中止)

### ■夏休みわくわくイベント

日程	事業名	参加者数
7月28日(火)	疫病退散「妖怪アマビエ」を描こう ■内容■ アマビエ人形のスケッチと、オリジナル妖怪・アマビエれんガールのぬり絵遊び	9名
7月29日(水)		2名
7月30日(木)		8名
7月31日(金)		25名
8月4日(火)		12名
8月5日(水)		18名
8月7日(金)		26名
8月12日(水)		藍のマスク染め ■内容■ 参加者持参のマスクを藍で染める
8月13日(木)	68名	
8月14日(金)	87名	
8月18日(火)	48名	
8月19日(水)	39名	
8月20日(木)	36名	
8月21日(金)	47名	
8月30日(日)	消防音楽隊コンサート	29名

## ■教室・イベント事業

日程	事業名	参加者数
7月18日(土)～8月23日(日)の 土曜・日曜日と祝日(計15日)	クイズラリー すずさんと学ぶ戦時下の暮らし	1,556名
8月28日(金)	大人の染色体験 藍染めTシャツ作り	20名
9月19日(土)	『ごんぎつね』おはなし会と、 ぎつねの起き上がり人形作り	20名



藍染のTシャツ作り



講演会の様子

## ■館外事業(カッコ内は主催者)

日程	事業名	参加者数
6月4日(土)	講演「西国街道勉強会」(広島市中区役所地域起こし推進課)	13名
6月20日(土)	講演「西本川の歴史と神社について」(土橋町町内会西本川のむかしむかし事務局)	66名
8月6日(木)	テレビ生活情報番組出演「一銭洋食について」(中国放送報道制作センター)	—
9月30日(水)	講演「広島歴史散歩」(祇園西公民館)	19名

## 令和2年度 後期展示紹介

### 企画展 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし 令和2年9月5日(土)～11月29日(日)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーをまじえながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



### 特別展 広島県の災害の歴史

令和2年12月12日(土)～令和3年2月28日(日)

過去の事例をとおして、広島県の町のなりたちや、災害に対する先人の知恵を紹介します。



「云備孝義伝」(二編) / 広島城蔵

### 企画展 福井芳郎とがんす横丁の世界 令和3年3月13日(土)～5月5日(水・祝)

戦前の広島の盛り場、世相、風俗について紹介した『がんす横丁』(薄田太郎著 シリーズ全4冊)には、地元の作家・福井芳郎氏による魅了的なさし絵が掲載されています。企画展ではさし絵の原画を中心に展示し、当時の町や人々の生活の様子を紹介します。



「旧広瀬町電停」福井芳郎画 / 広島市公文書館蔵

ひろしま郷土資料館だより No.100  
令和2年(2020)10月31日発行  
編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館  
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20  
TEL:(082)253-6771 FAX:(082)253-6772  
URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

